

キャリア形成科目群

この科目群では将来のキャリアに関連した科目を、国際コミュニケーション、学芸員課程、多文化理解、地域連携、その他キャリア形成という分類で提供しています。このうち、

- 国際コミュニケーションに分類される科目はE科目の中のE3科目として指定されています。

E3科目では学術的言語技能の向上を目的とします。教養を深め、異文化を理解し、専門分野の知識を高め、そしてそれらを活用していくためには、学術的言語技能の習得が不可欠です。学術的言語技能は、受容技能と産出技能に大別することができます。例えば、英語による講義を理解するためには聴解力（受容技能）が、聴いた内容に対して自分の意見を口頭で述べるためには発話力（産出技能）が必要です。E3科目ではこうした受容技能と産出技能を統合して学習します。以下ではE3科目の技能領域と目標、概要を例示します。①・③・④・⑤には「I」と「II」の下位区分があり、前者が基礎的、後者が応用的なスキル開発を行うものです。

① アカデミックディスカッション (Academic Discussion) …リスニング&スピーキング

[目標] 英語での講義やニュースなどの音声を聴き、その情報を整理し、口頭で発表する高度な学術的言語技能を養います。

[内容] 対面授業を通して、ゼミ、講義、学会などでの口頭発表や質疑応答などで求められる発話力を主に育成します。さらに、講義を聴き、その内容の要約や自らの意見や主張を述べる能力を育成します。導入、情報提供、結論、議論などの一連の発表技能（presentation skills）のみならず、発表者に対する説明の要求、質問、反論を行うための参加技能（participation skills）の育成も対象とします。

※本科目は、令和5年度以前の開講科目「セミナーパーティシペーション」を再編したものです。

② クリティカルリスニング (Critical Listening) …リスニング&スピーキング (リスニングの自律学習中心)

[目標] 英語での講義やニュースなどの音声を聴き、その情報を整理する聴解力の育成に比重を置きます。また、口頭で発表する高度な学術的言語技能を養います。

[内容] eラーニング教材を活用した自律学習を通じて、ゼミ、講義、学会などのアカデミックな場面で求められる聴解力を主に育成します。また、あわせて口頭発表や質疑応答などで求められる発話力を育成します。

③ アカデミックプレゼンテーション (Academic Presentation) …リーディング&スピーキング

[目標] 学術的な文献などを対象とした批評的、批判的な読解を通して、自らの意見や主張を口頭で発表する高度な学術的言語技能を養います。

[内容] 執筆者の意見や主張を理解し、その根拠となるデータや資料を分析する批判的読解（クリティカルリーディング）能力を育成します。さらに、それらに対する自らの意見や主張をまとめ、効果的に発表する技能の育成を目指します。特に「II」では、国際学術会議における口頭発表など、より発展的な技能の養成に焦点を当てます。

※本科目は、令和5年度以前の開講科目「オーラルプレゼンテーション」を再編したものです。

④ テストテイキング (Test Taking) …総合的四技能

[目標] 国内外の大学院への進学、学術研究を目的とした海外留学、および留学中に受ける定期試験などで要求されるテストテイキングを中心とした高度な学術的言語技能を養います。

[内容] 単に受験対策（test-taking strategies）の学習にとどまることなく、各試験問題で要求される読解力や聴解力など四技能を総合的に養います。海外の大学における定期試験、および留学に必要な TOEFL® (Test of English as a Foreign Language) や IELTS™ (International English Language Testing System) などを受験する際に要求される技能の育成が含まれ、テストテイキング技能の育成には、語彙学習など他の技能の要素も加味されます。

⑤ アクティブリスニング (Active Listening) …リスニング&スピーキング (リスニング中心)

[目標] 英語による講義を履修するために必要となるリスニング能力の育成を目的とします。より具体的には以下の通りです。(1) 英語の音声的特徴を分析的に理解すること、(2) 文脈や背景知識や発話の状況を活用して、次にくる情報や内容などを予測したり自身の理解を修正したりすること、(3) 英語の概論的講義（10～20分程度）を聞いて、その概要や要点を的確に把握すること。

[内容] リスニング能力の育成では、語・文レベルでの聴解力を重視するボトムアップ型と、背景知識や文脈などを活用した意味理解を重視するトップダウン型の両方を組み合わせます。

国際コミュニケーション分野では、上述の科目以外にも技能向上を目的とした科目が全学向けに開講されます。シラバスを確認して各自が習得を期待する技能を目的とした科目を見つけてください。

- 学芸員課程分野の科目は、学芸員資格を取得する上で履修が求められる科目のうち、全学共通科目として開講されているものです。

- 多文化理解分野の科目は、海外での実地研修等において多様な文化的背景を持つ学生と共に学ぶ経験を通して、相手文化への理解を深めるとともに、自分自身が身につけてきた文化を客観的に捉え、それらを他者にわかりやすく伝えるためのコミュニケーション能力の基礎や、文化、社会、習慣に関する多角的アプローチを習得する科目です。令和5年度まで少人数教育科目群において開講されていた「ILAS セミナー（海外）」は、令和6年度以降は本分野の科目「海外実地セミナー」として開講し、海外での実地研修を通じて、現地の自然、政治、経済、文化、歴史などの事情を学び、多文化・地球環境等への理解を深めることを目標とします。
- 地域連携分野の科目は、京都地域の課題について、地方自治体、地元企業、各種団体等との連携を通じて学び、大学がもつ知を活用してその解決法を考え、実践するための力を養う科目です。